

学校だより

大田区立大森第八中学校
令和7年11月28日 第6号

個々の色が輝き、共に創る「幸せ」のカタチ

校長 大山 剛史

木々の葉もすっかり色づき、朝夕の冷え込みに冬の足音を感じる季節となりました。校庭を吹き抜ける風は冷たさを増していますが、教室からは生徒たちの温かな活気が伝わってきます。

今年度も後半に入り、運動会や文化祭といった大きな行事を経て、こどもたちは一回りも二回りもたくましく成長しました。仲間と協力することの難しさと喜び、目標に向かって努力することの尊さを、体験を通して学んでいる姿に、私自身も日々心を動かされています。

昨今、「ウェルビーイング」という言葉を耳にする機会が多くあります。直訳すれば「幸福」や「健康」となりますが、これは単に「病気ではない」とか「一時的に楽しい」という意味にとどまりません。身体的にも、精神的にも、そして社会的にも「満たされた良好な状態」が持続することを目指します。

この概念は、学校においても重視されています。社会が急激に変化し、正解のない問い合わせ続けなければならない現代において、こどもたちが自らの人生を切り拓くための「土台」が必要だからです。偏差値や点数といった数値化しやすい能力（認知能力）だけでなく、自己肯定感、やり抜く力、他者への思いやり、そして「自分は社会の中で役に立っている」という感覚こそが、予測困難な未来を生き抜くための羅針盤となります。

私たち中学校が目指すべきは、生徒一人ひとりが「学校に来ると安心する」「ここでなら挑戦できる」「自分らしくいられる」と感じられる場所、すなわちウェルビーイングが保障された環境であると私は考えています。

学校におけるウェルビーイングを実現するために、欠かせないのが「心理的安全性」です。

授業中に手を挙げて間違った答えを言っても笑われない、失敗しても認め合える、悩みがあれば誰かに相談できる。こうした安心感があって初めて、こどもたちは恐れずに未知の課題へ挑むことができます。

学校では、対話を重視した授業づくりや、生徒自身がルールを考える自治活動に取り組んでいます。これらはすべて、生徒が「受け身」ではなく「主体」として学校生活に関わることで、自らの幸福感を高めていくための試みです。

勉強ができる、スポーツが得意といった特定の尺度だけでなく、絵を描くのが好き、人を笑わせるのが得意、植物の世話が丁寧など、多様な個性が尊重される土壤を耕すこと。それこそが、真の意味での学力向上や人間的成长につながると信じています。

そしてもう一つ、忘れてはならない視点があります。それは、こどもたちを支える私たち大人自身のウェルビーイングです。

学校で働く教職員が疲弊し、心に余裕を失っていては、生徒の小さな変化に気づき、温かく寄り

添うことはできません。教職員がいきいきと働き、教育への情熱を持ち続けられる環境を整えることは、巡り巡って生徒たちの幸せに直結します。これが「働き方改革」の本質的な目的でもあります。同様に、保護者の皆様や地域の皆様が、学校と関わる中で「つながり」や「安心」を感じていただけることも大切です。子育てには悩みや不安がつきものです。学校は単にこどもを教育するだけの機関ではなく、保護者の皆様と共に悩み、共に喜びを分かち合うパートナーでありたいと願っています。

大人が互いに信頼し合い、笑顔で対話する姿を見せること。それが、こどもたちにとって「社会は信頼に足る場所だ」という希望のメッセージとなり、彼らのウェルビーイングを支える最強の環境となるはずです。

きらめく八中生



東京都中学生吹奏楽コンクール B組 銀賞 吹奏楽部の皆さん

区民スポーツ大会（秋季大会）

柔道 中学1年生（軽量級）の部 優勝
中学2年生（軽量級）の部 優勝

陸上 男子中学2・3年100m 6位
男子中学2・3年走幅跳 3位
女子中学2・3年走幅跳 3位

大田区中学校剣道新人大会 男子団体 3位

大田区特別支援学級連合スポーツ大会 2位 2ブロックBチームの皆さん
2位 4ブロックBチームの皆さん
5位 3ブロックBチームの皆さん

12月の予定

1日(月)	生命尊重週間[～5日]	24日(水)	美化日
3日(水)	三者面談終	25日(木)	終業式 職員会議
4日(木)	がん教育の授業(2) 専門委員会	26日(金)	冬季休業日[～1月7日]
5日(金)	避難訓練	28日(日)	年末・年始閉学[～1月3日]
8日(月)	全校朝礼 安全指導		
9日(火)	学校保健委員会		
10日(水)	職員会議	1月1日(木)	元日
12日(金)	新入生オリエンテーション 新入生保護者説明会	8日(木)	始業式 安全指導
15日(月)	生徒朝礼		

()内は学年